

報告「令和7年度作山古墳の発掘調査成果」

総社市産業部文化財課 岩橋 惇也

●作山古墳（つくりやまこふん）の概要

- ・所在地：総社市三須
- ・墳形：前方後円墳
- ・墳長：282m（全国第10位，県内第2位）
- ・築造時期：5世紀中頃（古墳時代中期中葉）
- ・指定区分：国史跡（大正10（1921）年3月3日指定）

→作山古墳の保存活用計画策定を目指し，令和6年度から史跡作山古墳調査活用事業を開始，令和7年度から6か年計画で古墳の基礎情報を得るための発掘調査を行っている。

①令和7年度作山古墳の発掘調査成果

令和7年度の発掘調査箇所【第1図】

→古墳前方部を中心にトレンチを計3か所設定。調査面積は約160 m²【第1表】。

前方部の構造，葺石や埴輪列の状況，張り出し部の性格，周堤・周濠の有無を確認した。

I. 前方部の調査成果

T1：前方部南側の2段目斜面以下にかけて設定。

〈主なわかったこと〉

- ・1段目斜面は地山を削って成形しており，斜面下方で流紋岩の岩脈が広がることを確認。
- ・1段目平坦面～1段目斜面の傾斜変換点付近で盛り土層を確認。
- ・2段目斜面で転落した葺石を検出（角礫と河原石を併用）。

〈主な課題〉

- ・1段目平坦面～1段目斜面にかけて存在するL字状の地形の性格が未確定。
- ・2段目斜面で原位置を保つ葺石が未検出。

※調査が未完了であったため，令和8年度も継続調査の予定

T2：前方部主軸部の1段目斜面～2段目斜面下半，2段目斜面上端～3段目斜面下半にかけて設定。

〈主なわかったこと〉

- ・1段目斜面，1段目平坦面は地山を削って成形していること，1段目斜面下方は流紋岩の岩脈が広がることを確認。
→前方部前端の突出部で遺物や埴輪列等の遺構は確認できず。削り残しか？
- ・各段平坦面の長さは約8 m，各斜面の角度は約20度である。
- ・2段目斜面で原位置を保つ葺石を検出（角礫と河原石を併用，基底石確認）。
→石を葺く際の基準とした縦方向の目地を1条確認。

- ・ 2段目平坦面で埴輪列を検出（抜き取られていた埴輪も含めて合計5本）。
→掘方を観察したところ、単独の穴に大形の埴輪を据え置いたのち、溝を掘って小形の埴輪をまとめて設置した様子が確認できた。周辺の古墳では見られない設置方法。
＝大形品同士の間隔は分からないが、列に並べるときに目印としていたと考えられる。
- ・ 3段目斜面で崩落した葺石を検出（流紋岩の角礫がほとんどを占める）。

〈主な課題〉

- ・ 3段目斜面で原位置を保つ葺石が未確認。
→令和8年度調査で再検出を行う予定。
- ・ 1段目平坦面のくぼみに落ち込んだ埴輪の性格が不明。
→2本確認しているがそれぞれ別個体。埴輪列の個体が後世に破壊されて投棄された？

II. 張り出し部の調査成果

T 5：張り出し部平坦面から斜面裾、古墳周縁部の平坦面にかけて設定。

〈主なわかったこと〉

- ・ 造り出しであることを確認
→普通、造り出しはくびれ部両側に1か所ずつ（あるいは片側のみ）取り付くが、作山古墳は前方部の片側に2か所存在する。こうした構造は県内初の発見で、全国でも数例。
- ・ 斜面から大量の円筒埴輪片、須恵器や形象埴輪（主に家形）の破片が出土。
→須恵器や形象埴輪は祭祀を行う場所に限定的に置かれる（造り出しと判断した根拠）。
- ・ 葺石は存在しない
- ・ 裾部～斜面下半は地山を削って成形、斜面上部は盛り土で成形。
→境目にあたる部分で角礫が帯状に並ぶことを確認。土留めとして石を撒いた可能性。
- ・ 円筒埴輪の基部の破片がまとまって出土。
→張り出し部平坦面に並べられていたものと想定。平坦面は後世に削られたか？

〈主な課題〉

- ・ 帯状の角礫の性格が未確定。
→部分的なものなのか張り出し部全体に鉢巻状に撒かれていたのか。
- ・ どんな祭祀を行っていたのか不明（水関連？食物供献？）。
→手掛かりは家形埴輪等の形象埴輪と須恵器だが、祭祀内容の復元までは現状できない。

III. 周辺の調査成果

T 2：古墳西側の残丘部に設定（古墳主軸の延長線上）。

〈主なわかったこと〉

- ・ 表土直下で地山を検出し、古墳に関連する遺構は見られなかった。

T 5：古墳外周に周堤・周濠があるか確認するために設定。

〈主なわかったこと〉

- ・ 張り出し部裾から15～20m外側で盛り土層を確認。
→大きく3層に分かれ、埴輪片等の遺物を一切含まない。古墳築造に伴うもの。

- ・盛り土層の下の旧表土層から弥生時代中期末～後期初頭の弥生土器片が出土。
→盛り土が弥生時代よりも新しいと判断した根拠。
- ・盛り土の高さは墳丘側の地山面から約 50cm、外側との比高差は約 70～80cm。盛り土の幅は約 6～7 m とみられる。

〈主な課題〉

- ・盛り土の正確な規模の確定
- ・果たしてこの盛り土が周堤なのか
→令和 8 年度に継続して調査を行う。

IV. 出土遺物の成果

〈円筒埴輪〉

- ・各トレンチで多数出土。
- ・大半が窖窯焼成である一方、野焼き焼成の埴輪も少量存在する。
→造山古墳の埴輪は野焼き主体で一部窖窯焼成あり（後から製作した可能性）。焼成技術の過渡期。
- ・規格、突帯、調整技法などから大きく 2 つのグループに分類ができる【第 2 表】。
→各グループ、出土地点の偏りはない（＝同時期につくられ、置かれたと考えられる）
- ・Ⅰ類の特徴は畿内地域の埴輪と規格、製作技法が似ている（＝王陵系埴輪）。
→畿内の工人がつくったか、畿内での埴輪製作に動員された吉備の工人が技法などを覚えてつくったか。

〈形象埴輪〉

- ・T 1 で動物埴輪（鼻）の破片、T 2 で蓋形埴輪（蓋部）の破片、T 5 で家形埴輪（屋根、壁など）、盾形埴輪とみられる破片が出土。
- ・窖窯焼成主体だが、T 5 で出土した家形埴輪は野焼き焼成である。
→周辺の古墳をみると、円筒埴輪が窖窯であっても形象埴輪が野焼きの例はある。
Ex.) 造山 4 号墳、西山 25 号墳など
＝複雑な作りである形象埴輪に窖窯が優先して採用されるというわけではないようだ。

〈須恵器〉

- ・T 5 から少量出土（甕、はそう？など）。
- ・作山古墳の時期とみられるものと、それよりも新しい時期のものがみられる。

◆調査成果をまとめると…

- ・前方部で葺石と埴輪列を確認した。
- ・葺石は段によって使用する石材や形が異なる。
- ・埴輪を配列するときに、大形品を先行して設置してから小形品をまとめて配置する方法をとっていた。
- ・前方部前端の突出部は流紋岩の岩脈が広がるのみで、現状古墳に関連する遺構等は確認できない。
- ・古墳西側の残丘部では、現状古墳に関連する遺構は確認できない。
- ・前方部北西側に造り出しが2つ並ぶ構造であることがわかった。これは県内初の例で、全国的にも非常に珍しい。
- ・古墳北西側の周縁部で古墳築造に伴う盛り土がみられた。これにより、作山古墳に周濠・周堤が存在した可能性が高まった。

②令和8年度の発掘調査の予定

令和8年度の発掘調査箇所【第2図】

- ・令和7年度調査で課題として残った、前方部の複雑な形状の確認、3段目斜面で原位置を保つ葺石の検出を目的に、T1、T2の一部の継続調査を行う。
- ・前方部の形状（前面、側面）の更なる解明、周堤状の盛り土の範囲や性格を確認することを目的に、新たにT3、T4の調査を行う。
- ・調査面積は約200㎡、調査期間は9月～12月の予定。
- ・昨年度同様、調査中は現地説明会も開催予定（続報をお待ちください）。

今後の作山古墳の調査成果もぜひご期待ください！

〈主要参考文献〉

川西宏幸 1978「円筒埴輪総論」『考古学雑誌』64巻第2号 日本考古学会

木村 理 2023「古墳時代中期前半における吉備地域の埴輪編年」『古代吉備』第34集

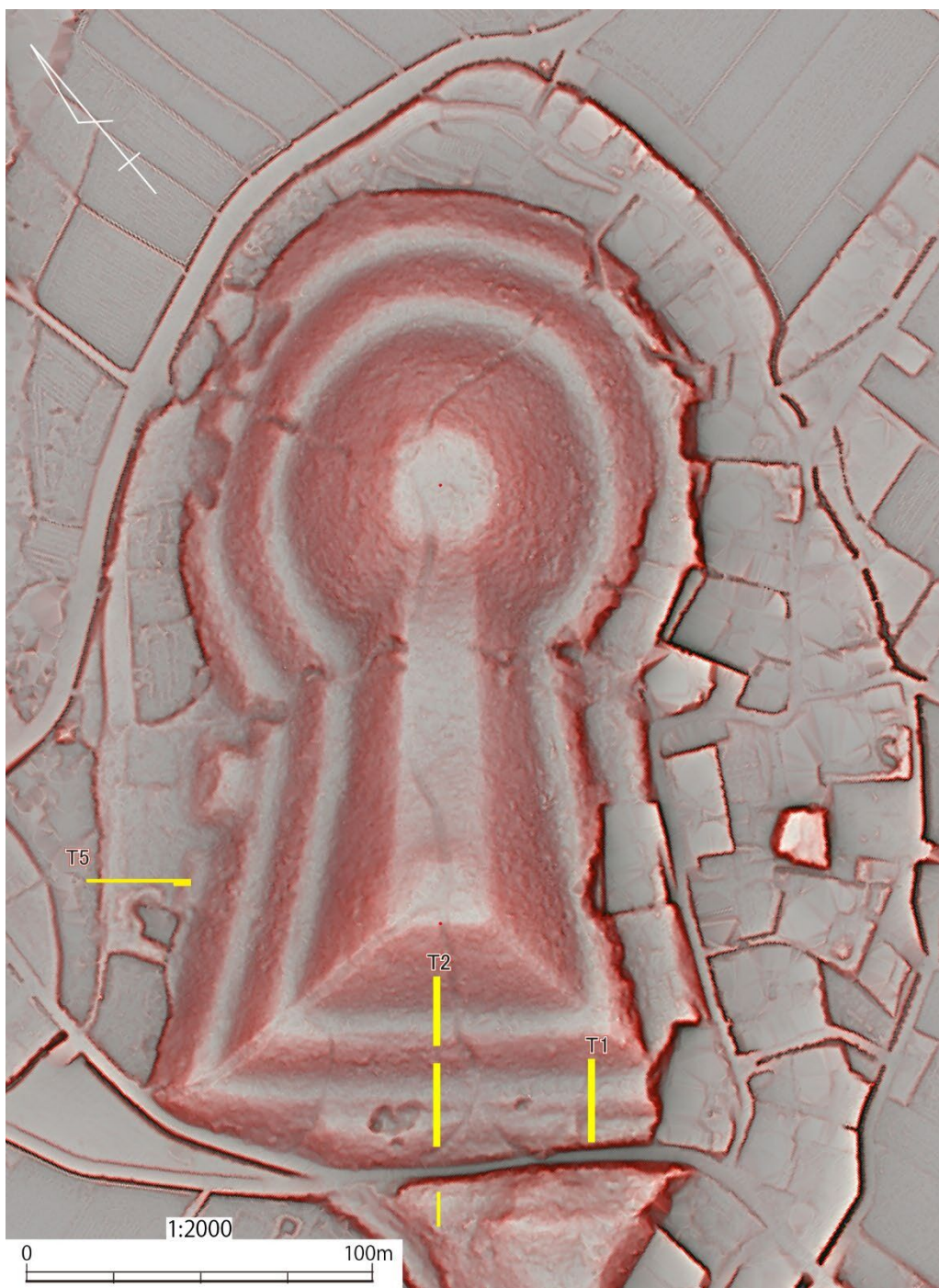
木村理・廣瀬覚 2023「吉備中枢における埴輪の展開 金蔵山・造山・作山」『季刊考古学』第163号

総社市教育委員会 2016「国指定史跡 作山古墳測量調査報告書」『総社市埋蔵文化財発掘調査報告25』

都出比呂志 2005『前方後円墳と社会』塙書房

廣瀬 覚 2024「王陵からみた吉備の埴輪―百舌鳥・古市古墳群と吉備の巨大古墳―」『吉備の巨大古墳と巨石墳』広瀬和雄・草原孝典編 雄山閣

平井典子 2024「倭の五王時代の巨大古墳―作山古墳から両宮山古墳へ―」『吉備の巨大古墳と巨石墳』広瀬和雄・草原孝典編 雄山閣



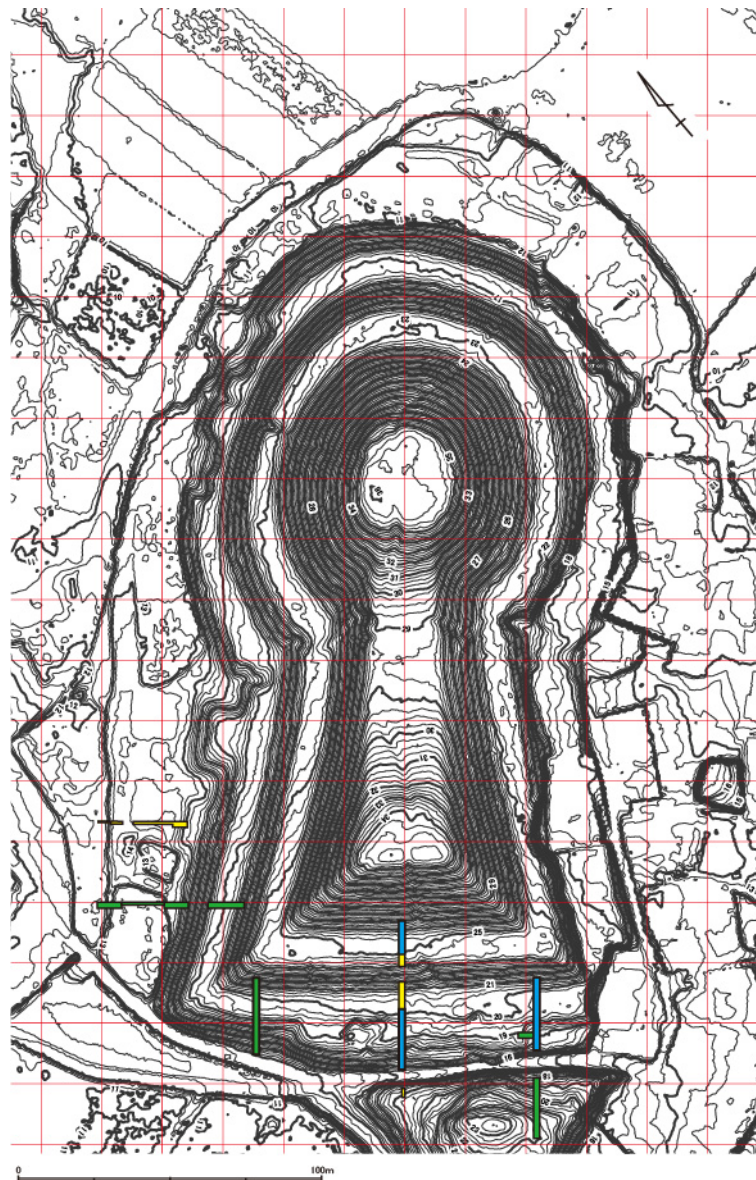
第 1 図 令和 7 年度作山古墳発掘調査区位置図 (S=1/2, 000)

第 1 表 令和 7 年度作山古墳発掘調査区規模一覧

調査区名	長さ×幅(m)	面積(m ²)
T1	24×2	44
T2	15×2, 24×2, 6×1	84
T5	5×2, 25×1	35

第2表 作山古墳出土円筒埴輪のグループ別の特徴

	I 類	II 類
底部高	・10～12cm	・13cm以上
突帯間隔	・底部高とほぼ同じ	・底部高より2cm程度短い
突帯	・幅が広く、あまり突出しない ・最下段の突帯を板状の工具を用いて貼り付け、上下をナデつけないものが存在する	・幅が狭く、突出する
外面の調整技法	・B種ヨコハケ (工具を埴輪から離さず、連続して施すヨコハケ) ・静止痕不明瞭なヨコハケ →突帯間を1周分のヨコハケで調整する	・静止痕不明瞭なヨコハケ →突帯間を複数周ヨコハケで調整する
透かし孔	・円形	・円形
焼成技法	・窖窯	・窖窯 ・野焼き
備考	・同時期の畿内地域の埴輪と同じような特徴 →最新技術を携えた工人がつくった	・同時期の畿内地域の埴輪よりも古い特徴 →地元の工人がつくった？



第2図 令和8年度作山古墳発掘調査区位置図 (S=1/2, 500)